



議長の目^{アイ}ランド



***** 船と水平線 *****

日本は戦後70年、焼け野原の中から驚異的なスピードで経済復興を成し遂げてきた。同じように東京諸島も復興の速度は異なるが、経済成長の恩恵は受けている。50年前の生活と今を比較すると雲泥の差があると思うのは私だけだろうか？

しかし、生活スタイルが変わり便利な世の中になったと感じる一方、まだまだ不自由を強いられている所もある。それは東京から南へ約1000キロメートルの所に位置する小笠原父島と母島です。現在、東京都に属している有人島は自衛隊関係や気象関係の常駐島を除いて北から大島・利島・新島・式根島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島・青ヶ島・小笠原父島・母島の11島であるが、それぞれに自然環境の違いや気象条件の違いでライフラインにも大きく影響している。小笠原への交通については通常は海上輸送のみ



で空路便は無い。特に急病人の搬送では青ヶ島迄は東京消防庁の救急ヘリが来れるが、小笠原まではヘリコプターの航続距離が足りず、父島は自衛隊の飛行艇で直接本土へ、母島は海上自衛隊の救難ヘリコプターにより硫黄島経由で本土へ、海上が平穏な時は飛行艇で本土へ搬送している。又、年に1回の定期船のドック入りでは通常15～16日位かかり、その間はここ10年程、代船がないため完全に本州との交通アクセスがなくなるとのこと。特にこの時期、受験生にとっては3週間以上宿の確保をしなければならず、金銭面、精神面の苦労は計り知れない。同じ東京都でありながら、このような島があるということを知ってほしい。

この先28年度から始まる光ファイバーケーブルの敷設工事については29年度以降の完全実施を目指して行政と一体になり強く要望していきたい。

議長 戸田 邦市